



河野 修一 建設部門（港湾および空港）

勤務先：北日本港湾コンサルタント株式会社

私は、札幌生まれで現在の会社に1976年（昭和51年）に入社し、ここ20年近くは主に道内の港湾・漁港整備に関する計画関連業務に携わっています。

港湾の整備は、北海道開発の歴史とともにありますが、それぞれの港が先人技術者達の熱血な努力と知恵、さまざまな思いの上に創り上げられてきていますことから、

私がこの仕事につけることは光栄と思うとともに責任の重大さも感じているこの頃です。

昨年、サハリンへ出向く機会がありましたが、サハリンの主要港湾は戦前日本時代に整備した施設が今も主要施設として使われています。国内の主要港湾は、凡そ10年毎に計画を見直して整備を進めていますが、港湾施設が100年近く機能することを考えますと、現状の厳しい財政状況下においても将来の変化にも柔軟に対応可能な港づくりが大切であると考えています。

また、私は子供のころから、魚釣りが大好きで海や港に釣りに出かけますが、道内の港湾・漁港の多くが街と近接し、夕方ともなると晩酌の肴を釣りに地域の老人たちが集まっています。しかし、海という魅力的な資源を持ちながら、まだまだ港や海を活かした人々の憩いの空間は少ないように感じます。高齢化社会が到来し、何かと高齢者の札幌移住が進み地方の過疎化が深刻な問題となっていますが、安全で快適な地域のコミュニティ空間となるような親水空間を少しでも地方のみなとまちに提案し、豊かな暮らしを楽しむ生活の場を創造していければと思っています。



次号は、瀬川 登さん（建設部門）



赤間 英一 機械部門（建設機械）

勤務先：株式会社榑崎製作所 設計部

TEL(0143)59-5132 FAX(0143)59-3906

私は、1989年（平成元年）に榑崎製作所に入社しました。入社からの5年間の鋼橋の設計、その後2年間の鉄構設計、4年間の開発業務を経て、機械設計に移り今日に至っています。登録部門は、機械なので「機械屋」と言うことになっていますが、その

の実体は「土木屋に近い機械屋」という状態です。当社は、30年程前は造船業を主力としていましたが、現在は鋼橋の製作・架設を主力としています。私の担当は、それら主力品ではなく、産業機械、水処理機械です。特に最近では、道路・トンネル等の工事から出る濁水の処理装置、農業（含畜産）・漁業の排水の処理、排水溝汚泥のリサイクル、その他にも養殖設備、バーク材燃焼ボイラーなど「環境」「リサイクル」「農業・漁業」をテーマにした業務を中心に行っています。

家に帰ると週末には、米、甜菜、麦、小豆等を作る兼業農家をやっています。数年前までは、これに加え、酪農もやっていました。しかし、父から私に経営が移管された時に、さすがに辞めました。技術屋と農家の両立は、大変そうに思われるかも知れません。確かに妻と両親の協力が、あればこそです。しかしそれ以上に、得るところが多い「癒しの場」になっていると、最近強く感じています。

今後は、貴重(?)な兼業農家技術士の立場を生かし、北海道の地場産業である一次産業と、機械製造業の橋渡しをしたいと考えていますので、よろしく願います。



次号は、豊田 誠さん（機械部門）